

Lecture series : Surviving Cancer in Asia at Tokyo University

2019年9月—2020年 2月

テーマ 「アジアでがんの UHC の実現は可能であるのか？」

可能とするならどのような形で実現できるのか？」

(授業の前の我々の問題意識)

2019年 WHO のサイドイベントにおいて U I C C は、癌データの整備を UHC の基盤に位置づけている。

<https://www.uicc.org/news/power-data-drive-progress-universal-health-coverage>

まず UHC の計画では、対象範囲と持続可能性を確保するために、システムを特定し、統合し、適切に資金を供給する必要があるからである。

癌データは本来患者に基づくものであるが、それらが臨床現場でどのようなプロセスで共有され国際社会でデータとして共有されているかについてこれまであまり言及されてこなかった。WHO IARC のデータは、ある時点における横断的調査データとして位置づけられる。しかしながら、がん医療は診断から治療を継続的に、ひとりの人間を追いかけた時間的経緯のなかでたどったデータでなければ医療実態を把握し難い性質のものである。それが、感染症の患者とがんの患者との医療実態把握のプロセスの違いであるといえる。即ち感染症は主に急性疾患でありその転帰は比較的短時間であるが、がん疾患は長期におよび慢性疾患とも言える。こうした特殊性により、がん医療がグローバルヘルスの世界でもその実像把握がなかなかなされず、国際援助の枠組みにも入りにくかったといえる。しかし、がん医療の実態は単に医療の問題だけではなく広く社会的背景を映し出す鏡である。アジア健康構想の中で、我々ががんのレジストリーのアジアにおける実現に言及したのは、UHC の根幹は、データであるという癌医療者の信念からである。

今期の授業は、「アジアでがんの UHC の実現は可能であるのか？」という大きな問いを考えるために、個々の講義ごとに、講師ひとりに3つの軸をたてて、問いを設定した。

我々は、UHC の実現のための基盤はデータ整備と考えているため、各講師には、個々の3つの問いに加え、共通の質問として「それぞれの領域でアジアのデータを集めることの課題にどう取り組み、どのような問題を感じているか？」について答えてもらう。ゲノム、AI、ビッグデータ、遠隔医療とがんデータを巡る様々な今日的課題について論じてもらい、日本がいまアジアのがんの UHC 実現において貢献しうることを掘り下げていきたい。

## Keyword

UICC  
Universal Health Coverage  
G20  
University  
Cross-boundary  
GAFA  
Digital Health  
Public Private Partnership  
Affordability  
Local Community  
Work Force  
Personalized Medicine  
AI  
Patient Engagement

今期の授業は、「アジアでがんの UHC の実現は可能であるのか？」という大きな問いを考  
えるために、個々の講義ごとに、講師ひとりに3つの軸をたてて、問いを設定した。

9/24 大学はデジタル時代の知にどんな意味があるのか？

東京大学大学院情報学環教授吉見俊哉

- ①現代のデジタル情報社会において大学の果たす役割は？
- ②アジアの知の方向性をどうみるか？
- ③SDG s 課題の中での Cross-boundary Cancer Studies の意義

10/1 アジアでがんの UHC の実現は可能であるのか？

東京大学大学院情報学環特任教授 赤座英之教授

- ① UHC の意味と実現の要件とは何か

② がん医療がもつ特殊性

③ 癌臨床データの収集とその課題

10/8 アジアのがんデータ収集の現状と未来

愛知県がんセンター がん予防研究分野 分野長 松尾恵太郎

国立がん研究センター 国際がん登録協議会 IACR 理事長 松田智大

- ① アジアのがん医療の現状とは
- ② WHO IARC がんデータの収集はどのようにすすんでいるのか
- ③ アジアがんセンター
- ④ アジアコホート
- ⑤ アジアのがん予防
- ⑥ ゲノム・AI 未来にむけてアジアの疫学はどんな可能性があるのか

11/5 米国製薬事情からみたアジアのがん医療

元バイエル薬品株式会社取締役会長 栄木憲和

- ① 高額抗がん剤と医療格差
- ② アジア市場を研究開発型製薬業界はどうみているのか
- ③ 米国デジタルヘルスの動向から読み解く異業種連携がもたらす地平とは？（ヘルスケア産業の業態変容の動向）

11/12 グローバル・データシェアリング

慶應義塾大学特別招聘教授 増井徹

リアルワールドデータの真実

- ① デジタルと個人 医療情報は誰のものか？
- ② AI とビックデータ

医学医療における知識表現、知識処理、人工知能技術の応用

11/19 G20 を終えてー財政はアジアの癌のためになにができるのか

- ① 2019 アジア経済見通し
- ② G20 を終えてー財政がアジアの癌のためにできることとは  
(医療財政への癌医療の現場ひっ迫は必至であり、支払いに見合った医療アウトカムと持

続性が厳しく問われていくなか、アジアの癌医療への財政的見通しとは?) 国際社会  
の中でいま日本の役割とは 国際調整機関と各国政府の連携

11/26 アジア健康構想とがんゲノム

参議院議員 武見敬三 国立がん研究センター理事長 日本癌学会理事長中金斉

- ① 高齢化するアジアのあるべきヘルスケアの姿と日本の役割  
(アジア健康構想とその背景—政治的モメンタムとその潮流について)
- ② G20 における日本政府のスタンス
- ③ アジア健康構想
- ④ 個別化医療がもたらすがん医療の展望
- ⑤ ゲノム医療とアジア
- ⑥ アジアがんセンターネットワーク

12/3 高齢化からみたアジアのヘルスワーカー事情と UHC

- ① アジアの人口動向と労働市場 (どのようなデータが必要なのか)
- ② ヘルスケアシステムの動向と人材育成スキーム
- ③ IT とがんデータ整備の未来

12/10 官民パートナーシップはアジアに何をもたらすのか

塩野義製薬株式会社代表取締役社長 CEO 手代木功

- ① IFPMA と Access Accelerated
- ② アジアの医薬品規制と UHC
- ③ 官民連携の GAP とはなにか? 官民対話の質の向上のためにはなにが必要か?

1/7 日本の癌医療の課題と展望

厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課

- ① WHO デジタルヘルスと UHC  
(WHO Drafts Global Strategy on Digital Health)
- ② アジア健康構想と癌医療政策
- ③ アジアの癌医療現場における UHC 課題  
(Health Technology Assessment と患者にとっての価値とは)

かたちだけ

#### 1/14 UHC と医療機器

AI テクノロジーが塗り替えるグローバルヘルスの地平とは

梶村春彦浜松医大教授

- ① アジアの癌診断の実情とデータ
- ② デジタルパソロジーとアジアゲノムネットワーク
- ③ 病理からみたアジアの癌の特性
  
- ④ アジアの癌診断事情
- ⑤ がんゲノム・アジア最前線
- ⑥ 個別化医療とアジア

#### 1/21 Patient Engagement

東京大学特任講師 河原ノリエ Access Accelerate Team

- ① Patient Engagement がなぜ世界の潮流なのか
- ② World Cancer Day から読みとく社会のステークホルダー
- ③ ローカルコミュニティーベースのデータ収集

#### 1/28 Student Presentation (グループ発表)